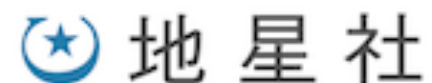


特定非営利活動法人 地星社

第11期 事業報告書

2022.4.1 - 2023.3.31



私たちが目指すもの(ビジョン)

私たちひとりひとりが地域づくり・社会づくりにかかわっていく社会の実現。

そのために私たちがすること(ミッション)

社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援し、増やしていく。

活動において大事にしたい原則

1. 信頼の原則

人や組織には、社会を変える力が本来備わっていることを信じ、その力が活かされるよう後押しする。

2. 互敬の原則

人を大事にし、互いに敬い合う関係性を築く。

①協働を推進する事業に本格的に取り組み始めた

宮城県の委託事業として実施した絆力交流事業において、多様な主体による協働のアクションプランをつくる取り組みを実施した。その中から実際に協働の事例も生まれそうである。

これまでも地星社では多様な主体による協働や連携を重視し、例えば2018年、2019年に作成した地域活動団体ガイドブックも団体同士の連携促進のツールとなることを意図していたが、協働を生み出すことそのものを目的とした事業を行ったのは今回が初めてだった。

ポスト復興の地域づくりの観点からも協働の推進は重要になっており、地星社では今後もそうしたノウハウや実績を蓄積していく予定である。

②地域ライター講座の受講者らによる地域ライターの団体が生まれた

2021年度に実施した地域ライター講座の受講生らによる団体「CHIMORI」が誕生し、2022年度から活動を始めた。CHIMORIのメンバーは名取市の魅力発信事業への協力や、地星社の地域ライター編集講座への参加などを通して、地域の情報発信の活動を行っている。

地域づくりへの参加をより広げていく上で、ひとつの成功事例となった。

事業分野	事業／内容
A 相談・個別支援	1. 相談・個別支援
	2. 岩沼市市民活動サポートセンター活動支援業務
B 人材育成	1. 地域ライター編集講座
	2. いわぬま創生ラボ(ブランクラボ)
C 協働推進	1. 復興庁被災者支援コーディネート事業
	2. 絆力交流事業(仙台・仙南地域)
D その他	研修講師、各種会議委員等
組織運営に関する業務	理事会・総会等の会議、会計・税務、労務、会員管理等

事業概要

目的

調査・計画づくり・評価等についての個別支援をすることで、組織基盤強化や課題解決を促進させる。

実施内容

依頼を受けて随時個別相談を実施したほか、継続的な相談支援を希望する団体に個別支援を行った。

種類		実施内容	担当
相談		個人や団体からの随時の個別相談に対応した。内容は、NPO法人化、認定NPO法人の取得、移動支援事業の進め方についての相談などだった。	布田、赤川
個別支援	(特活)いるか	組織の経営に関する相談(9回)を行った。	布田

実施内容

岩沼市市民活動サポートセンターの市民活動相談と市民活動基礎講座を担当した。

実施スケジュール

内容	開催日	担当
市民活動相談	5月26日	布田
市民活動相談	7月28日	布田
市民活動相談	9月22日	布田
はじめての市民活動講座	10月29日	布田

事業概要

目的

地域に関心を持つ市民が、市民目線で地域の魅力を認識し、情報発信できるようメディアの作成を通じて編集のノウハウを学び、地域づくりへの参加を増やす機会を広げていけるようにする。

事業実施体制

名取市市民協働提案採択事業として、名取市などの魅力創生課と協働しながら実施した(補助事業)。

実施内容

- ①地域ライター編集講座の実施(企画の作り方、原稿作成、校正、レイアウト等)
- ②地域ライターによる地域の魅力の取材活動
- ③フリーペーパーの作成

(担当:布田、赤川)

成果

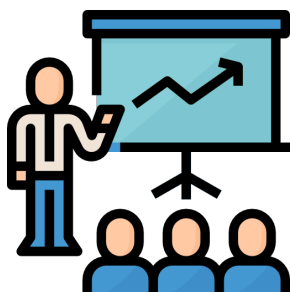
参加者は地域の魅力を市民目線で取材・発信することで、地域の魅力を再発見し、地域への関心を高めていった。

完成したフリーペーパーは、デザインやコンテンツもクオリティが高く、プロが作ったものと同レベルのものになった。仙台空港や尚絅学院大学など、市民であれば存在は知っているがその内側についてはそれほど知られていないものを体験取材し、地域の魅力として伝えることができた。

事業概要イメージ



参加者募集



講座(5回)＋お披露目会



取材



フリーペーパー
作成



講師によるOJT、事務局の伴走サポート

実施スケジュール

日程	内容
4月～	参加者申込受付
6月25日	講座第1回「編集のコツ」
7月30日	講座第2回「取材のコツ」
8～9月	取材(5か所)
9月10日	講座第3回「素材のまとめ」
11月19日	講座第4回「デザインのコツ」
12月10日	講座第5回「初稿のチェック」
1月21日	フリーペーパー完成お披露目会

※会場はいずれも閑上公民館

講師

ジェンティーレ恵さん(フリーランス編集者/ライター)

参加者

16名の受講者の参加で実施した。

取材先

仙台国際空港、Natu-Lino(ジェラートショップ)、尚絅学院大学、ゆりあげ港朝市、愛島台中央公園

制作物

フリーペーパー B5版サイズ・カラー12ページ 1000部

講座の様子



講座第3回
素材のまとめ



フリーペーパー
完成お披露目会

Natu-Lino



仙台空港



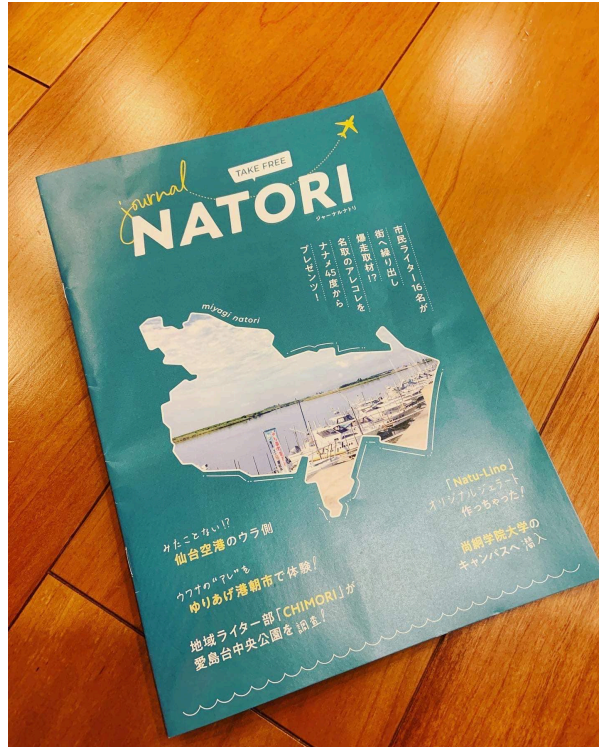
尚絅学院大学



ゆりあげ港朝市



取材の様子



完成した
フリーペーパー



河北新報に掲載

事業概要

目的

ワークショップやまち歩きを通じて、高校生が地域に目を向け、地域の様々な人々と関わるきっかけをつくる。

事業実施体制

本事業は青年海外協力協会(JOCA東北)が岩沼市の委託で行ったいわぬま創生ラボの一環で、地星社が再委託を受けて実施した。

事業実施にあたっては、JOCA東北、前年度のいわぬま創生ラボの参加者、名取高校と連携を取りながら進めた。

実施内容

高校生を対象としたワークショップとまち歩きを実施。高校生が岩沼市中心部でまち歩きをした際に気になったものを写真に撮り、その中からテーマを見つけて取材・調査を行い、その結果を発表した。この一連の活動を大人の参加者がサポートした。

(担当:布田、赤川)

成果

当初地域の大人とのコミュニケーションに不慣れな様子でとまどいが見られた高校生たちも、「」ラボに参加して活動していく中で、徐々に地域に関心を持ち始め、地域の大人との会話もスムーズになった。

また、選んだテーマの着眼点もユニークで、発表内容もうまくまとまっており、活動を通して高校生たちは少しずつ自信をつけていった。

実施スケジュール

内容	日程	参加人数
第1回WS お互いを知る	9月25日	高校生9名、教員2名、 大人6名
第2回WS フィールドワーク (まち歩き)	10月16日	高校生4名、教員2名、 大人10名
フォローアップ(総合学習の授 業)	10月19日	高校生9名、教員1名、 大人4名
第3回WS 計画の作成	10月30日	高校生4名、教員1名、 大人3名
第4回WS 取材・調査	11月13日	高校生9名、教員1名、 大人3名
第5回WS まとめ	11月20日	高校生6名、教員2名、 大人3名
発表会(JOCA東北ございん フェスティバルで発表)	12月4日	高校生5名、教員3名、 大人25名程度



第2回WSの様子

※会場はいずれもJOCA東北

※参加した大人は、2021年度のいわぬま創生ラボの参加者など地域
住民が主である。

事業概要

事業目的

被災者が安定的でよりよい日常生活を送ることができるようになることを目指し、復興の主体である被災者や被災者支援に取り組む多様な担い手(自治体・支援組織・企業等)による活動の推進を総合的に支援する。

事業の実施体制

本事業は、復興庁被災者支援総合交付金被災者支援総合事業の一環として行われた。2022年度は、宮城においては(一社)みやぎ連携復興センターを申請主体とし、(特活)せんだい・みやぎNPOセンター、地星社の3団体の連携で事業を実施した。

地星社では、統括コーディネーターとして事業の総合調整と、県南エリア担当の役割を担った。

事業内容

- ①巡回訪問による被災地域の社会課題・資源の把握及び整理
- ②被災地域の社会課題解決に向けたサポート
- ③協働体制構築に向けた各種ミーティングの開催

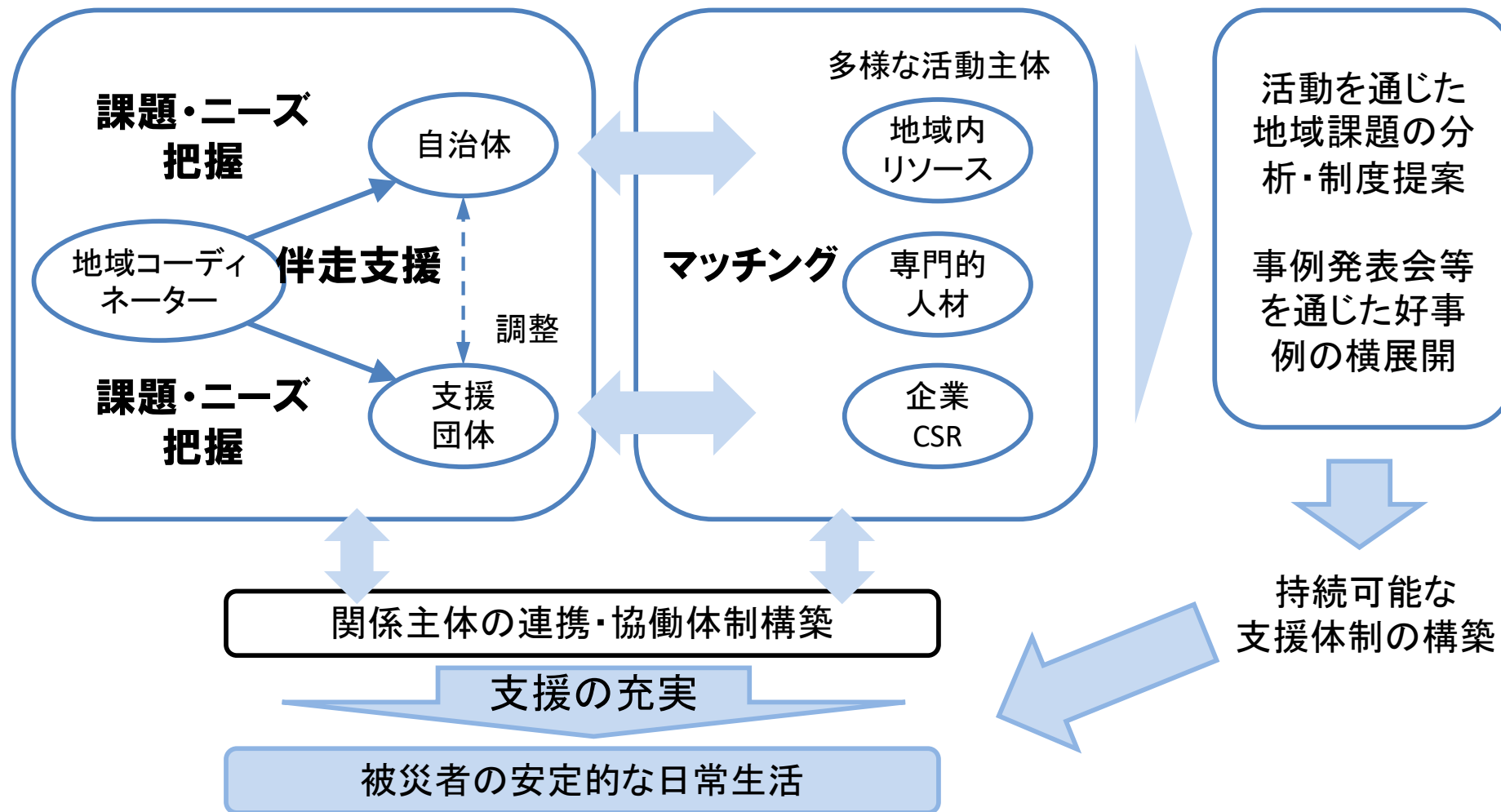
(担当:布田)

成果と今後の課題

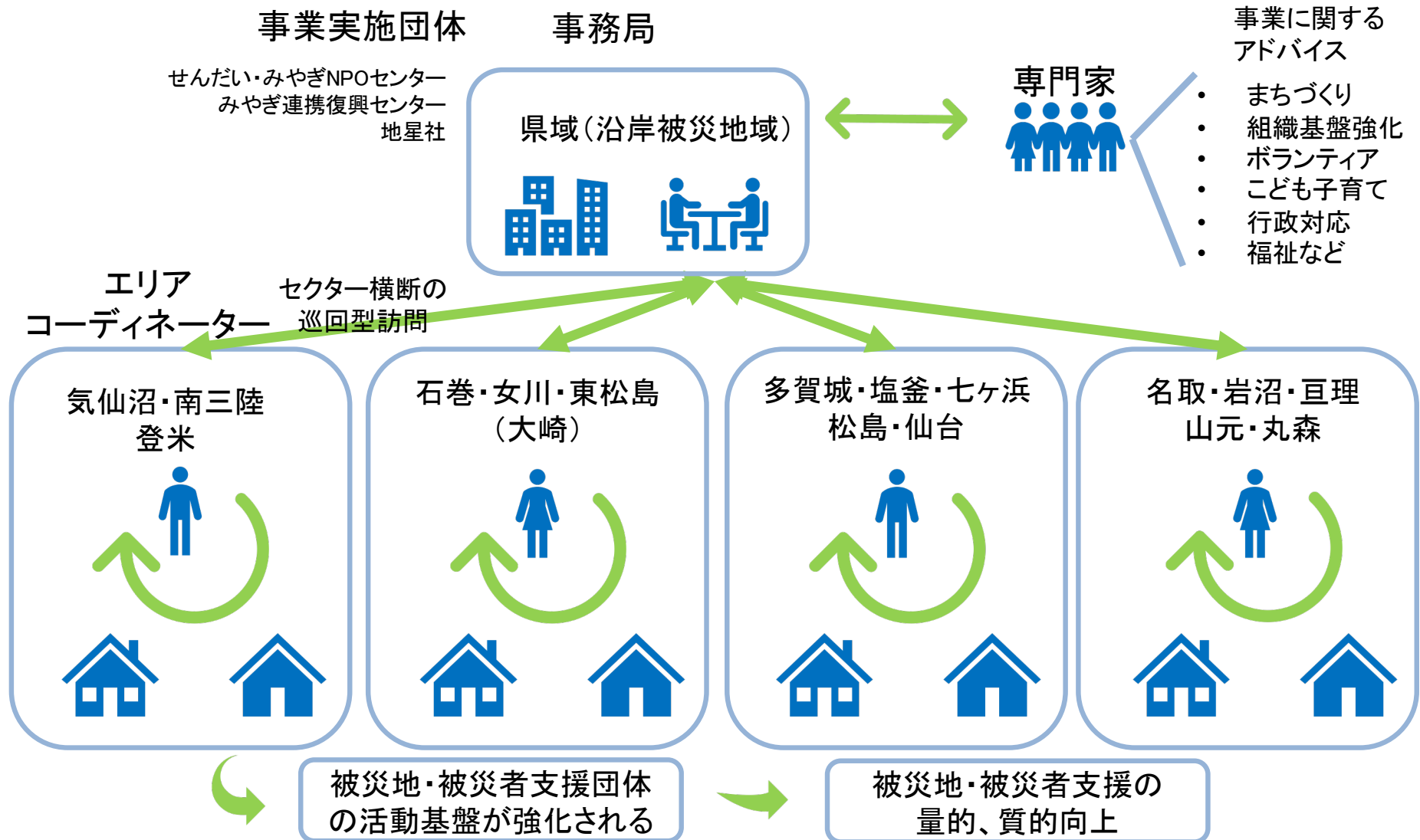
チームメンバー同士や、各エリアの協力団体等との情報共有が進み、多様な視点での議論と、それぞれのネットワークや強みを活かした支援を行うことができた。

専門家派遣がしくみとして使いづらい状態のため、多くの団体に利用してもらえよう改善を図ることと、リソースの情報を増やしていくことが課題である。

活動イメージ図



事業実施体制



事業概要

目的

復興・被災者支援を行うNPO等が、支援者や他の復興・被災者支援を行うNPO等との交流・情報交換により顔の見える関係を築くことで、復興・被災者支援を継続していくために必要となる絆力の強化を図る。

委託元

本事業は宮城県(共同参画社会推進課)の委託を受けて実施した。

実施内容

「協働による復興地域づくり」をテーマに、①交流会(協働の地域づくりのための作戦会議)、②インタビューと冊子作成、③被災地・地域活動団体ガイド(PDF版)の作成の3つの取り組みを行った。

(担当:布田、赤川)

成果

交流会には多様な主体の参加が得られ、対話を通して具体的な協働について一緒に考えることで、被災地域における多様な協働の可能性を広げることができた。

インタビュー冊子では、仙台・仙南地域の各自治体から比較的身近な協働の事例を紹介することで、協働のポイントを参考にしやすいようにできた。

①交流会(協働の復興地域づくりのための作戦会議)の開催

実施概要

他の主体と協働することによってできる取り組みのアイデアを出し合う、ワークショップ形式の交流会を仙台・仙南の4地域で実施した。

ワークショップは1テーブル2～5人程度のグループで行い、グループごとに協働で実施できるアクションプランを考え、発表を行った。

開催地域	実施日	会場	参加者数
塩釜・多賀城・七ヶ浜会場	1月28日	多賀城市市民活動サポートセンター	10人
仙台会場	1月18日	仙台市市民活動サポートセンター	13人
名取・岩沼会場	2月5日	岩沼西コミュニティセンター	17人
亘理・山元会場	1月14日	山元町防災拠点・山下地域交流センター(つばめの杜ひだまりホール)	11人

担当:

ファシリテーター 赤川

話題提供 布田

交流会の様子



塩釜・七ヶ浜・多賀城会場



名取・岩沼会場

②インタビューと冊子作成

実施概要

協働の地域づくりをテーマに、10団体にインタビューを行い、冊子を作成・配布した。さまざまな形の協働の事例を取り上げ、協働の必要性と事例に見る協働のポイントについても解説した。

冊子の体裁・部数

A5版 カラー28ページ、150部作成

タイトル

宮城県沿岸被災地域(仙台・仙南地域) 協働の地域づくり事例集

地域	取材した事例
塩竈市	塩竈市杉村惇美術館
七ヶ浜町	きずなFプロジェクト
多賀城市	多賀城市市民活動サポートセンター
仙台市	せんだい・みやぎソーシャルハブ
	東北大学課外・ボランティア活動支援センター
	一般社団法人ReRoots
名取市	一般社団法人プレーワーカーズ
岩沼市	JOCA東北(いわぬま創生ラボ)
亘理町	一般社団法人WATALIS
山元町	NPO法人ポラリス



完成した冊子



事例紹介ページ

③被災地・地域活動団体ガイドの作成

実施概要

仙台・仙南で活動する地域活動団体の情報を集めたPDF形式の資料(団体情報集)を作成した。

掲載内容

- ・団体基礎情報(団体名、代表者名、連絡先等)
- ・活動内容
- ・できます(団体が得意とし、できること等)
- ・求む(必要としている支援や協力等)

掲載団体数

24団体

子ども・教育
子どもが遊び育つ社会を目指して
一般社団法人プレーワーカーズ

〒981-1241 宮城県名取市高館熊野堂字飛鳥中3
 E-mail : info@playworkers.org
 http://playworkers.org
 電話 : 022-397-7507
 代表者 : 須永 力

【活動内容】

気仙沼、名取他、県内各地で地域の大人と協力して、子どもが自由に遊ぶ場づくりをしています。大人が何かを“やらせる”のではなく、子どもが何でも“やっていい”遊ぶ場づくりをめざしています。森、川、海、公園、校庭、神社の境内、田んぼ、路地裏等々、その場の要素を活かしながら、色々な道具を使って、できる限り子どもが自由に心と体を動かして遊べるようにします。

【できます】

どんな場所でも子どもの遊び場にすることができます。私たちがつくる子どもの遊び場の対象年齢は0歳から200歳まで。子どもと大人を分けません。赤ちゃんとお年寄りを分けません。健常者と障害者を分けません。

【求む】

自由な遊びは子どもの心身に不可欠。なのに大人は無頓着。だからずっと欠乏状態。それを何とかしようにも、お金が全然足りません。だから人手も足りません。

掲載した団体情報の例

講師派遣等

内容	主催	実施日	担当
九州子どもフォーラム(登壇者)	NPO法人いるか	9月24日	布田
令和4年度市町村サポート事業(講師)	宮城県教育委員会	11月18日	赤川
共生地域を考える講座(講師)	名取市閑上公民館	1月26日	布田

各種委員等

布田が岩沼市市民活動助成審査会委員、宮城県民間非営利活動促進委員会委員を、赤川が宮城県立名取支援学校運営協議会委員を務めた。

原稿執筆

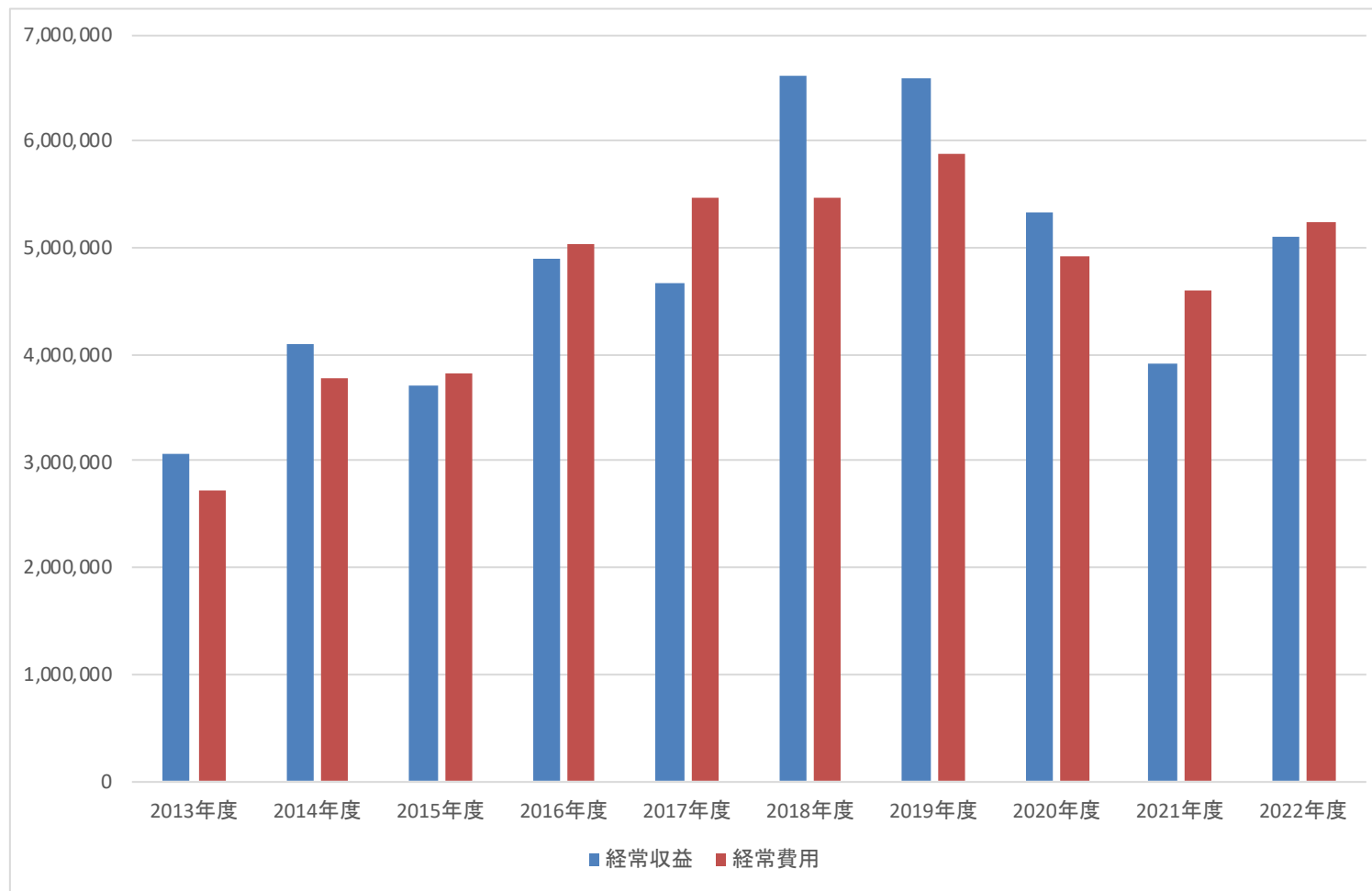
布田が大阪ボランティア協会が発行する市民活動情報誌『ウォロ』2023年2・3月号の「被災地の今」の原稿を執筆した。

ネットワークへの参加

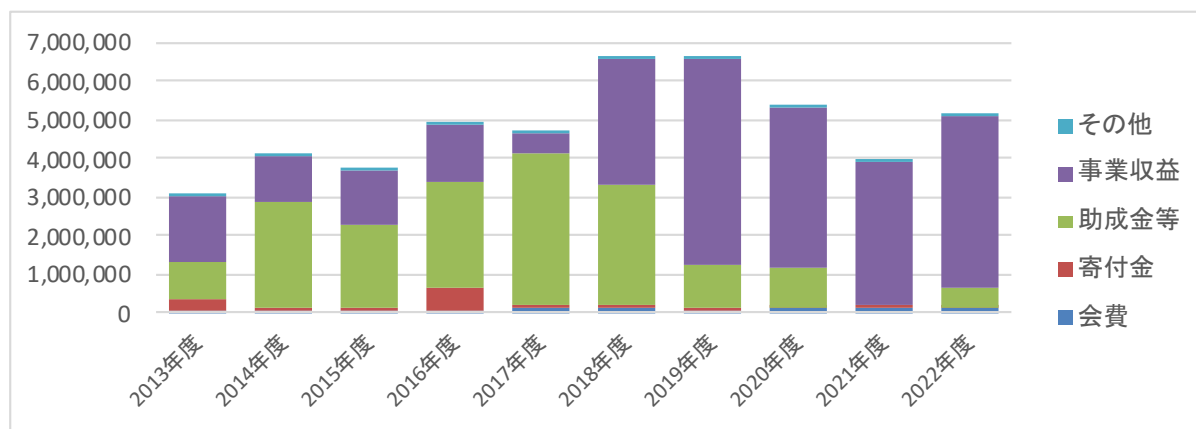
被災三県の間接支援NPOのネットワークであるNPOサポートリンクの会議に出席した。

会議の開催／監査の実施

実施日	会議	主な議題	出席者	会場／実施方法
4月21日	理事会	総会の日程について	理事4名、監事2名、スタッフ1名、オブザーバー2名	Zoom
5月11日	監査		理事1名、監事2名	地星社事務所及びZoom
5月17日	理事会	総会に付議すべき事項	理事4名、監事2名、スタッフ1名、オブザーバー3名	Zoom
5月27日	総会	役員の特任、事業報告・決算の承認、事業計画・予算の報告、意見交換	正会員12名、賛助会員個人1名	Zoom
11月8日	理事会	借入について	理事4名、監事2名、オブザーバー1名	Zoom
12月6日	理事会	借入について	理事4名、監事2名、オブザーバー1名	Zoom
3月8日	理事会	2023年度事業について	理事4名、監事2名、オブザーバー1名	Zoom



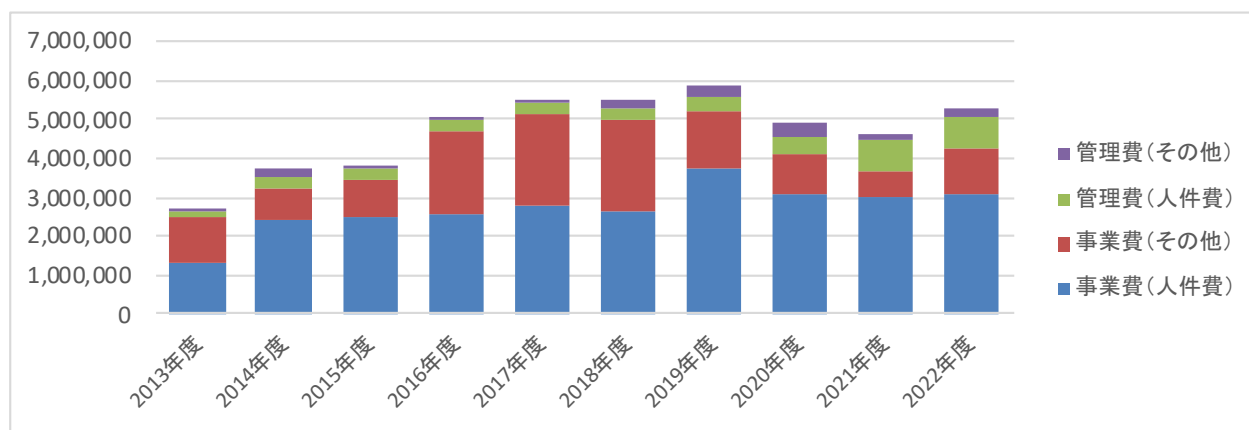
経常収益は前年度より増えたものの、経常費用も増えたため、2年連続で赤字決算となった。赤字幅は前年度より縮小した。



経常収益の推移

経常収益では、事業収益の割合が高くなっている。寄付金の額は初年度を除き、設立以来最も少なくなった。

経常費用では、地域ライター編集講座でのフリーペーパー作成や絆力交流事業での冊子作成が印刷製本費や諸謝金が増えたため、事業費(その他)の割合が増えた。



経常費用の推移

多くの方のご協力により、事業を進めることができました。改めて御礼を申し上げます。

謝辞

「地域ライター編集講座」は、名取市協働提案事業に採択され、名取市の補助を受けて実施しました。

資金支援のほか、2022年度も連携団体や会員のみなさま、多くの協力者の参加や協力によって事業を実施し、成果を収めることができました。

みなさまからのあたたかいご支援に対し、心より感謝を申し上げます。

ご寄付のお願い

地星社への引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。なお、地星社への寄付は寄付金控除の対象となります。

寄付金受入口座	
金融機関	ゆうちょ銀行 二二九(二ニキュウ)店(229)
口座名義	特定非営利活動法人地星社
フリガナ	トクヒ)チセイシャ
種別／口座番号	当座 0112957
* ゆうちょ銀行からは「02220-3-112957」にお振り込みください。	

名称	特定非営利活動法人 地星社
法人設立	2013年3月1日（任意団体設立 2012年9月1日）
所在地	宮城県名取市大手町5-6-1
役員	理事：布田剛（代表）、佐々木綾子（副代表）、 木村一也、関口宏聡 監事：石山由美子、高橋陽佑
スタッフ	常勤：布田剛 非常勤：赤川泉美
会員数	正会員13名、準会員（賛助会員）10名、3団体
URL	https://chiseisha.org
メール	office@chiseisha.org

（2023年3月31日現在）